

⑤日本は 534 時間 米国は 1,000 時間—公立学校の平均授業時間 (OECD インディケータ 2006 年版) (06.12)

OECD(経済協力開発機構)は、このほど、加盟国の教育の現状を比較、分析した「OECD インディケータ 2006 年版」を発表した。

それによるとわが国の初等中等レベルは依然として高いものの、大学教育では東アジア諸国に追い抜かれていることが分った。

1995～2004 年に、大学に在籍する学生数は中国とマレーシアで 2 倍以上に増えているほか、タイで 83%、インドで 51%、と急増している。

加盟国の公立校の年間授業時間は平均で 704 時間であるが、メキシコと米国の 1,000 時間強から日本の 534 時間まで幅がある。授業時間の年間配分方法も大きく異なる。例えば、教員の労働時間は 1 学年 42 週制のデンマークより 1 学年 36 週制のアイスランドの方が長い。ただし、教員の仕事量には授業の準備や採点、課外活動などに費やされる膨大な時間も含まれるので、授業時間は教員の仕事量を測る 1 つの目安に過ぎない。